



相互提案型協働事業実施報告書

平成 31 年 4 月 23 日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市入谷 1-3555-5
 名 称 アクティヴ・ママ
 代表者氏名 長瀬 未紗 
 市 担 当 課 渉外課
 所 属 長 川島 是一 

次のとおり報告します。

1 事 業 名	多国籍親子支援事業
2 事 業 形 態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選 考 年 度	平成 29 年度選考 (平成 30 年度実施)
4 報 告 期 間	平成 30 年 4 月 1 日 から 平成 31 年 3 月 31 日 まで
5 事 業 費	396,020 円 (うち座間市支出分 396,020 円)
6 事 業 概 要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	様々な国籍の人が在住している座間市で、孤立している親子の居場所作りと地域に友達ができることを目指し、国際交流サロンやイベントを開催した。毎月1回の国際交流サロンでは、主に外国籍住民をゲストとして呼び文化紹介や季節の工作、お茶を飲みながらの交流などを行った。年間2回のイベントでは、夏祭りや茶道体験を開催し、市民が日本の文化や外国の文化に触れる機会を提供した。また、外国籍住民に座間市の救急システムを理解してもらうため、国際交流サロンの一環で消防署見学を行ったり、外国籍住民の活躍の場として料理教室を行ったりと、ニーズに合わせた企画を行ってきた。
7 添 付 資 料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	多国籍親子支援事業
-----	-----------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	多国籍の親子の交流ができ、参加者数が伸び悩んだものの、概ね達成できた。	国際交流サロンやイベントを通して、外国籍親子と日本人親子が繋がる場や、参加者が多文化に触れ合う機会を提供できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立していた外国籍の母親に友人ができ、幼稚園や学校、生活全般について相談できるようになった。 ・日本人に嫌われていると思っていた外国籍の母親が、そうではなかったと気づいた。 ・サロンのような場に来たことがなかった母親が初めて参加し、外に出かけることの楽しさを知った。 ・料理教室や文化紹介など、母親の活躍の場ができた。 	<p>国際交流サロンやイベントを定期的実施したことで、リピーターが増え、参加者同士で顔なじみの関係を築くことができている。</p> <p>また、座間市に引っ越してきたばかりの外国籍親子がサロンに参加し、すぐに市内に知り合いを作ることが出来た。</p> <p>参加者のなかには、過去に外国人ということで嫌がらせを受けたことがあり、それ以降は日本人に対して恐怖心を持っていたが、当事業を通してそのような誤解が解けた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	市の担当者の方が頻繁に連絡をくださったりサロンに来ていただきお手伝いして下さったことで、現状を知っていただき、共通認識を持つことができました。	日頃から連絡を取り合い、十分な協議・調整ができている。目的等についても確認しながら事業を進めている。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	十分な情報交換ができた。 スケジュールについて、参加者の様子や時期等の理由により実施が難しくなったときには早めに相談し見直しを行うことができた。	事業の実施にあたっての一連の進行管理については、密に連携をとりながら進めることができた。 スケジュールについては、3ヶ月に1回程度の頻度で確認しあい、必要に応じて見直しをすることができた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	互いに尊重して協議することができた。時に企画内容や広報の仕方についてもアドバイスをいただいたり、こちらにも要望を出させてもらったりを繰り返しながら、よりよい事業を作り上げていくことができた。	役割を分担しながら、それぞれの視点から意見を伝え合い、対等な立場で協議することができた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	広報面など当団体の弱い部分をフォローしつつ導いてくれたと感じる。	お互いの立場を理解し、時には役割を補い合い協力しながら事業を進めることができた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	(団体の役割) 国際交流サロンやイベントの企画、運営 情報提供 周知活動	(市の役割) ・活動場所の提供 ・広報活動 ・サロン、イベントの準備、運営 ・市のネットワークの活用 ・活動資金

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適性であった。	適正だった。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	サロンやイベントの企画・運営は十分に果たすことができた。	当初の予定通り、一定の役割を果たせた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	単独では広報や活動場所の確保などが難しかったので、参加者が集まり続けてこられたのはやはり市との協働の成果と考える。また、市のもっている資源を有効活用でき、企画内容をより充実させることができた。	団体や団体のネットワークに、英語が堪能なスタッフがいたことで、市単独では開催が難しい英語を用いたコンテンツを企画し、サロンやイベントで実施することができた。また、親子が気兼ねなく参加できる事業を実施できたのは、自らも子育て世代である団体の強みを活かしたこそその効果である。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>(団体の考え)</p> <p>サロンの内容を見直しながら、参加者のニーズに合ったものに変えつつ継続していく。</p>	<p>(市の考え)</p> <p>平成30年度の事業では、消防庁舎において、救急車の呼び方や搬送先の病院で必要になるものなど、救急システムについて学べるサロンを開催した。このような生活に密着した企画は、外国籍親子の支援に繋がるものとして有意義であると考えており、今後も実施していくことが望ましい。</p> <p>平成31年度の事業では、外国にルーツを持つ子どもを対象とした日本語の学習支援に取り組む予定であるが、このような外国籍親子のニーズについて解決できるよう、引き続き事業に取り組みたい。</p>